



kuroyou-dayori

鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

鉄の歴史を思いながら

副校長 金田 貴子

ひよんなことから鉄小学校創立100周年の年に書かれたと思われる資料を見つけました。

その中に校歌について「歌は4番まであって、いつの間にか3番がなくなり4番を3番として歌っている。」とありました。今は歌われていない歌詞を知りたいと調べ進めたところ、「なおいつごろから第3節を除くようになったか知らないが…校庭から鶴見川兩岸の竹藪の繁りを眺めた感じの詩であった。」という記述と6連の詩が見つかりました。作詞を行った広田花崖氏が当時の校長先生の依頼を受けて作詩したもので、この詩をもとに校歌の歌詞としたそうです。

雲の宮居を東に仰ぎ
文化の港を南に控え
地の利の恵みゆたけきところ
ここに武蔵野の片ほとり
竹の縁に千代万代の
鶴見の流れ晨に夕に
平和の樂を奏するところ
吾等が學び舎ここに立つ
堂の光窓の雪とぞ
風の晨も雨降る夕も
いそしむ吾等數百の學び子
固き心は鐵の
少年の氣か少女の胸か
淨らに強らに御空に冲り
雪の肌のいとゞ氣高く
まどより仰ぐ富士の峰
希望の峰のいと高ければ
せかず焦らず撓まず倦まず
睦び親しみ導け援け
共に變ぢなん文の阪
今し吾等は幼き芽生
花と咲くべし實を結ぶべし
吾等の勳功は母校のほまれ
共に励まん育たなん

詩のあちらこちらから当時の学び舎の景色や意欲に満ち溢れた子どもたちの姿が浮かびます。かつて歌われていた3番は2連目でしょうか。1連目の詩が校歌の1番の歌詞ですが、歌い始めが今と異なるのは、時代の変化に伴い広田氏自身の変更を申し出て今の歌詞となったとのこと。校歌ひとつをとっても、時代と共に変わっていく鉄小とその歴史を感じます。

教室が4つで敷地内に校長先生の住宅があったという147年前の初代校舎、村の人々が裏山を切り開いた土地に建てられた2代目校舎、校長室に飾られた3代目校舎の写真には高く伸びた杉の木と校舎が見えます。4代目の現校舎は3月末に体育館改修工事を終え、本校舎と体育館棟が2階の渡り廊下でつながります。校舎も時代と共に姿を変えていきますが、豊かな自然の中、友達と共に学び伸びていこうとする子ども達の姿はいつの時代も変わりません。

緊急事態宣言が発令され、感染症終息の見通しも不透明な日々ですが、子どもたちにとって少しでも充実した令和2年度が終えられるよう、残り2か月教職員一同取り組んで参りたいと思います。